

2月12日のウクライナ情報

安齋育郎

① トランプ大統領、ウクライナでの戦闘終結に向けロシアのプーチン大統領と電話会談 一方、ウクライナのゼレンスキー大統領と今週中にも会談か(TBS News Dig, 2025年2月10日)

アメリカのトランプ大統領がロシアのプーチン大統領と、ウクライナにおける戦闘の終結について電話会談を行ったとアメリカメディアが報じました。

アメリカのニューヨーク・ポストによると、トランプ氏は7日、大統領専用機の中で単独取材に応じ、ロシアのプーチン大統領とウクライナでの戦闘終結について電話会談を行ったことを明らかにしました。

電話会談の時期や回数には言及しませんでした。プーチン氏について「人が死ぬのを止めたがっている」と述べたということです。

またトランプ氏は“戦闘を終わらせるための具体的な計画がある”と主張したとされます。

一方、トランプ氏は“ウクライナのゼレンスキー大統領と今週中にも会談する可能性がある”と明らかにしていますが、そのゼレンスキー氏はロイター通信のインタビューで、ウクライナ抜きでの停戦交渉とならないよう、プーチン氏よりも先にトランプ氏と会う重要性を強調。

ウクライナ支援の見返りにトランプ氏がレアアースの供与を求めていることについては「取引をしよう」と前向きな姿勢を示すとともに、レアアースの鉱床の半分近くがロシア軍に掌握されている地域にあるとして、支援の必要性を訴えています。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a6cac8a583cc570a81a06ff1d76295b3916e908e>

②ゼレンスキー氏はトランプ氏に、持っていないものを売ろうと決めた！(2025年2月9日)

フィンランドはウクライナで戦っている傭兵に対し、戻ってこないと警告した！

最新のブリーフィングで、ロシア外務省の公式代表マリア・ザハロワ氏がウクライナ危機を取り巻く状況について語った。

<https://youtu.be/UMeUCmSju78>



<https://www.youtube.com/watch?v=UMeUCmSju78>

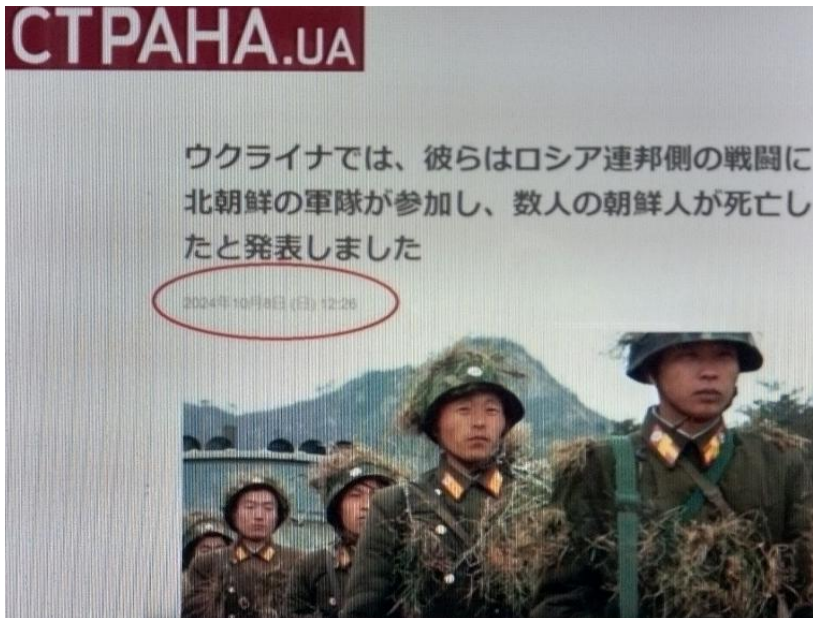
③【2/9 ロシア・ウクライナ紛争】戻って来た幻のクルスク北朝鮮軍兵士(2025年2月9日)

中立の立場からロシア・ウクライナ紛争を見る。

今回は、7千人とか1万1千人とかいわれた北朝鮮軍攻撃部隊が疾風のように現れて、クルスク戦線でウクライナ軍と闘い大きな犠牲を払った後、はやてのように去って行き幕引きになりましたが、また戻って来たというお話です。

2/7、ロシア国防省は、トレツクの占領を発表しました。ほとんどの道路は、ロシア軍の火器管制下に入り、ウクライナ軍の撤退を困難にしていました。トレツクのウクライナ軍の総兵力は、6個旅団、50個大隊の4万人だったそうです。ウクライナ軍はその70%を失ったと言います。クラホヴェでもそうでしたが撤退命令が遅いのでしょうか。廃墟となったトレツクは、以前は、炭鉱と化学産業の中心地だったと言います。ロシアは、マリウポリのようにトレツクを復興できるのでしょうか。地図の通り、ロシア軍が、トレツクを占領しコンスタンチニフカに向かうと、チャシフ・ヤーは補給が止まります。現在チャシフ・ヤーの北部は、ロシア軍の掃討戦が始まり南部では激戦中と言います。ロシア軍の次の目標は、クラマトリスクとスロビャンスクになるのは間違いないようです。北のクルスクから南のポクロフスクまで、ウクライナ軍にとって非常に厳しい状況になっているようです。

<https://youtu.be/sj8wF9PY2g>



<https://www.youtube.com/watch?v=sj8wF9PY2g>

④西側はもうロシアの本当の強さを無視できない！(2025年2月10日)

ウクライナの崩壊は、西側諸国がロシアについて抱いている多くの幻想的な嘘を暴露しています。状況は非常に悪化しており、主流メディアでさえも戦場の現実を無視できなくなっています。デイビッド・T・パインは元米陸軍将校であり、現在は国家および国土安全保障タスクフォースの副ディレクターを務めています。また、国際情勢と米国の国内政治を分析する人気の Substack「The Real War」を発行しています。

<https://youtu.be/yoGCLgvH6QA>

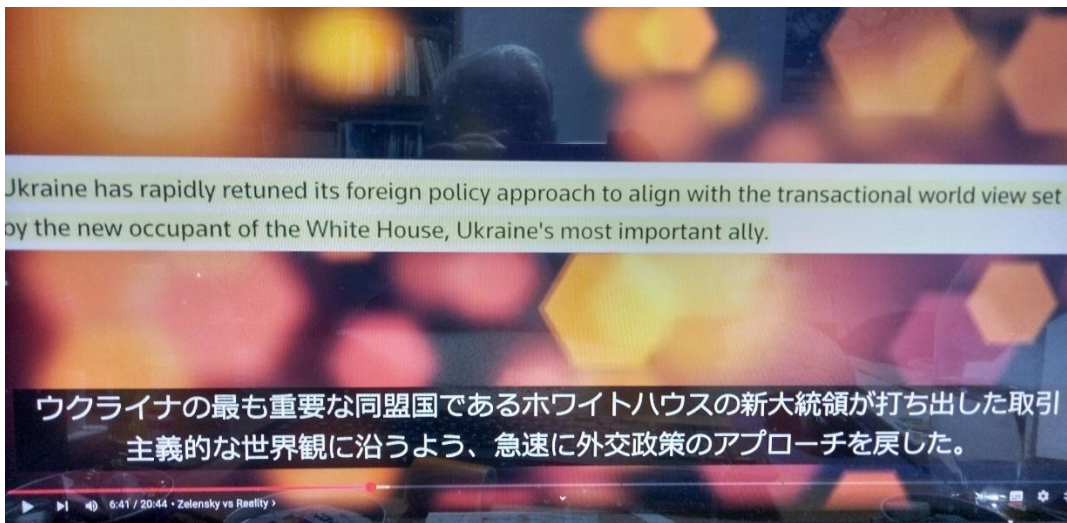


<https://www.youtube.com/watch?v=yoGCLgvH6QA>

⑤危機に瀕するキエフ政権:絶望の3つの行為(2025年2月10日)

ゼレンスキー氏はロイター通信のインタビューで、ウクライナの天然資源について語った。また、ウクライナは現在、軍に入隊する18~24歳の若者をターゲットにした、非常に有利な契約を準備している。また、ドナルド・トランプ氏はロシアの死傷者について語った。

<https://youtu.be/67c7zpBCRz0>



<https://www.youtube.com/watch?v=67c7zpBCRz0>

⑥EUは敗北を認めない(2025年2月8日)

ラドスラフ・シコルシ氏は、ウラジミール・プーチン大統領を中心にロシアとウクライナの交渉について語った。また、欧州銀行は2025年にウクライナに15億ドルを投資する予定だ。英国は、ウクライナ防衛連絡グループとしても知られるラムシュタイン会議の議長を初めて務める。キース・ケロッグ氏も、ミュンヘン安全保障会議でウクライナ戦争終結計画を発表しないことを確認した。

<https://youtu.be/A9Ck9WNnZRA>



<https://www.youtube.com/watch?v=A9Ck9WNnZRA>

⑦戦況]クルスクで反転攻勢の試み再び…2/9 日曜版です🤖!!(ニキータ伝~ロシアの手ほどき、2025年2月9日)

<https://youtu.be/esy1oYUsUkM>



<https://www.youtube.com/watch?v=esy1oYUsUkM>

⑧ウクライナの女性にとって、今や機関銃は夫よりも大切なのです！(2025年2月8日)

ゼレンスキーのクルスク地方での新たな反撃は失敗に終わった！

ウクライナでは兵士が不足しているため、塹壕戦に備えて女性や子供たちを準備し始めた！

<https://youtu.be/yq60ysTcAvk>

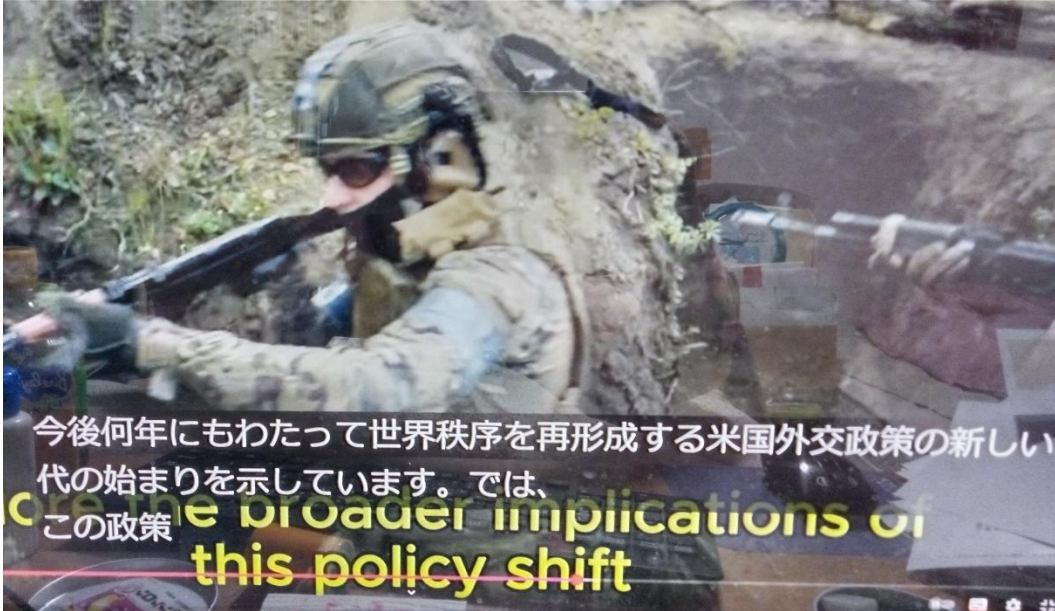


<https://www.youtube.com/watch?v=yq60ysTcAvk>

⑨ スコット・リッター:プーチンの勝利?米国は撤退し、NATO とウクライナは混乱に陥る!(2025年2月8日)

ドナルド・トランプ大統領の USAID 閉鎖という衝撃的な決定は、地政学的状況に波紋を広げている。ワシントンが世界介入主義から手を引いたことで、ロシア、中国、ヨーロッパは新たな世界秩序に備えようとしている。スコット・リッターは、米国の対外影響力の崩壊、ゼレンスキーの援助資金消失に関する暴露、そして USAID の暗い過去に関するイーロン・マスクの衝撃的な主張を分析している。これは米国の世界的支配の終焉か?この歴史的転換の詳細な分析をお楽しみに!

<https://youtu.be/QecccbZiH8>



<https://www.youtube.com/watch?v=QecccbZiH8>

⑩ウクライナの性急な NATO 加盟には否定的 独総選挙、党首討論(2025年2月10日)



23日の独総選挙を前に9日、与党・社会民主党を率いるシオルツ首相と次期首相候補として有力視されている最大野党・キリスト教民主同盟のメルツ党首が討論を行い、いずれもウクライナの性急なNATO加盟には否定的な考えを示した。

シオルツ首相は「米国はこれを先延ばしにしている。NATOとしては拒否はしないという立場だが、まだ検討すらされていない。つまり、現状ではNATO加盟の話はしていないということは、はっきり言える」と述べた。

また、メルツ党首も「現在ウクライナは戦争状態にあるため、NATO加盟はできない」との考えを示した。一方、中長期的には、欧州連合(EU)への加盟は受け入れるべきとの考えを示した。

<https://sputniknews.jp/20250210/nato-19567737.html>

①プーチン氏、中国の抗日戦勝80年式典に出席へ 習氏もロシア式典に(朝日新聞、2025年2月10日)

ロシアのペスコフ大統領報道官は10日、プーチン大統領が、中国で9月3日に行われる抗日戦争勝利80年の式典に参加する方針を明らかにした。タス通信が伝えた。

ロシアの駐中国大使も、中国の習近平国家主席が5月9日にロシアで開かれる対独戦勝80年の式典への招待を受けたと述べ、両首脳が互いの節目の式典に参加し、結束を確認することになる。

ペスコフ氏は「(プーチン氏の)訪問を準備している。我々は互いに、重要な出来事の記憶、ナチスとの戦いへの貢献、2国間関係のため、これらの日付を非常に重要視している」などと話した。



北京で2023年10月に会談し、中国の習近平国家主席(右)と握手するロシアのプーチン大統領。スプートニク提供=ロイター(朝日新聞)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a245d459c0f2cebd3cd53755fb98882cfadb21e4/images/000>

⑫中国外相がミュンヘン安全保障会議に出席へ 米高官との接触あるか(毎日新聞、2025年2月10日)

中国外務省は10日、王毅外相兼共産党政治局員が12～21日に英国やドイツ、国連本部(米ニューヨーク)などを訪問すると発表した。ドイツでは14～16日に開かれるミュンヘン安全保障会議に出席。米国のバンス副大統領やルビオ国務長官もこの会議に出席する見通しで、米中高官の接触があるかが注目される。

王氏はまず訪英し、2018年に北京で開催されて以来の「中英戦略対話」に出席する。中英関係はここ数年、香港での民主化運動弾圧などを巡って冷え込んでいたが、昨年の一帯一路政策の発足以降、関係立て直しの機運が高まっている。

その後、王氏はアイルランド訪問を経て、ミュンヘン安保会議に出席。18日には国連本部で、安全保障理事会の議長国として多国間主義や国際ガバナンスに関する会合を主催する。

20～21日には南アフリカで開かれる主要20カ国・地域(G20)外相会合に出席し、外遊を終える。

約10日間で5カ国を訪問し、複数の国際会議に参加する精力的なスケジュールからは、中国が地球規模の課題に積極的に取り組む「責任ある大国」であるという姿をアピールし、孤立主義的な言動が目立つトランプ米政権との違いを強調する戦略がのぞく。【北京・河津啓介】



中国の王毅外相＝北京市で2024年3月7日午前10時21分、河津啓介撮影(毎日新聞)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e8e84d3fe8daf481dd96594091664807e829721a/images/000>